

コンミス学関 勝負で知性

水着なし地域リポート審査

初代に社会学部1年・吉川さん

関西学院大の学生から「ミスキャンパス」を選ぶコンテストが1日、西宮市内で開かれた。関学大では初の試みという。関東では「女子アナの登竜門」とも言われる大学のミスコンだが、関西ではなぜか下火。主催した学生も、候補者が地域について学ぶ姿を前面に押し出し、「知性をアピールしたい」と硬派な面を強調した。

(吉野太一郎)

企画の中心になったのは総合政策学部3年の山下静香さん(21)。異業種交流会で出会った学生らと今年5月、「地域活性化のイベントを仕掛けよう」と話し合い、話題を集めそうなミスコン形式での開催を決めた。当初は大学祭のイベントとして開くことを検討したが、事前に実行委員会に相談したところ難色を示されたという。同じ時期に別の場所で開催することになった。

関西で学生のミスコンを定期的に開催している大学は、同志社女子大などと数えるほ

ど。「京都大を中心に女性学やジェンダー論の研究が盛んな影響で、拒否感が強いからでは」(東京で学生向けホームページを運営する会社の担当者)との説もあるが、理由ははっきりしない。他の大学からは「女性を品定めるイベントはダメ」という風潮があるからでは」(関西大の学生生活課)、「学内団体の『成果発表』とは認められない」(同志社大の学園祭実行委)

などの声が聞かれる。山下さんも「品評会みたいなミスコンは好きじゃない」と話す。水着審査は採用せず、最終選考に残った6人には「出身地やキャンパスのある街への思い」をテーマにスピーチしてもらったり、甲東園の商店街を訪問したりポータル映像を会場で流したりするなど、「地域とともに活動する学生像」にこだわった。

来場した約300人の投票や審査員選考の結果、初代「ミス関西学院」には社会学部1年の吉川亜樹さん(19)＝堺市北区Ⅱが選ばれた。将来はアナウンサー志望といい「選ばれるなんて思ってもみなかった。たぐさんの友達に恵まれ、応援してもらったおかげ」と笑顔だった。



ミス関西学院に選ばれた吉川亜樹さん(右から3人目)と、準ミスの柳田小百合さん(同4人目)＝西宮市